

(別記様式3号)

提出日：令和8年3月19日

一般社団法人家畜改良事業団
理事長 富田 育稔 殿

動物実験管理者：所属 家畜改良技術研究所
技術開発部

氏名 内山 京子



令和7年度 実験動物状況報告書

項目	報告内容
1. 動物実験等の実施状況	
(1) 実施件数	当該年度の実施件数の合計 57 件
(2) 実験動物 (動物種、実験件数、頭羽数)	ホルスタイン種 : 雌 42 頭 黒毛和種 : 雄 1 頭、雌 14 頭 (延 15 頭)
(3) 動物実験等の課題数	3 題
(4) 研究課題名	種雄牛の精液生産安定化技術開発事業 (JRA) のうち精液生産性改良技術開発事業 若齢種雄牛精液の受胎性向上技術開発事業 (JRA) のうち若齢種雄牛精液の高精度受胎性評価技術開発事業 技術推進事業のうち OPU 卵子を用いた新たな凍結方法の実証試験
(5) 動物実験等の実施内容	繁殖障害牛の精巣を、麻酔下で外科的に摘出・採取した。(繁殖障害牛は精液性状不良) 精巣重量、精巣サイズの測定および形態画像撮影、および塗抹標本作製を行った。 精巣および精巣上体の固定・組織切片作成、精子塗抹標本作成、精巣および精巣上体由来の核酸、タンパク質の抽出とゲノム、遺伝子発現解析を行った。 ドナー牛より経膈採卵 (OPU) し、採取した未成熟卵子を現行の輸送成熟培地を用いて成熟培養し、体外受精後の卵子を現行の発生培地を用いて作出した凍結可能胚を新たな凍結方法により凍結・保存し、レシピエント牛へ移植を行った。新たな凍結方法による

	胚の生産が当初予定の 12 月から 1 月へ遅延したため、胚移植が年度内に完了せず、来年度へ繰り越す。
2. 実験動物の飼養及び保管状況	
(1) 施設等の維持管理	種雄牛飼養に適切な広さ空間が確保され、逸走しない構造・強度のある施設。給水・給餌など必要な設備および消毒等の衛生設備を有し、床等の清掃、ストレスのかからない適切な温度、湿度、明るさ等を保つ維持管理ができていた。 雌牛飼養に適切な広さ空間が確保され、逸走しない構造・強度のある施設。給水・給餌など必要な設備および消毒等の衛生設備を有し、床等の清掃、ストレスのかからない適切な温度、湿度、明るさ等を保つ維持管理ができていた。
(2) 実験動物の飼養管理	雄牛は、当団で別途定める飼養管理マニュアルに基づき、適切に管理できていた。 雌牛は所有者の飼養管理の下、適切に管理ができていた。
(3) 教育訓練の実施	動物実験実施者に対して教育訓練を実施した（教育訓練実施状況は別紙のとおり）。
3. その他	
緊急事態に備えた措置として、各種雄牛センター毎に災害危機管理マニュアルを作成し対応していた。 雌牛は所有者の下で、緊急事態に備えた措置が取られていた。	

備考

- 1) 1-(2)は、当該年度に動物実験等に供用した全動物種とその実験件数及び頭羽数。
- 2) 1-(5)は、当該年度に実施した主な動物実験等の実験方法を簡潔に記載。
- 3) 2-(1)～(3)は、当該年度に実施した動物実験等の項目と問題点の有無、内容を記載。

令和7年度動物実験実施者に対する教育訓練実施状況

実施日	被教育・訓練者	教育・訓練担当者	教育・訓練内容
R7. 7. 30	工藤 幸奈	古家後 雅典	局所麻酔処置、陰囊の止血法